

### 3.1 教育（地方創生を担う人材育成）について

#### (1) 地域創生マインド養成教育プログラム

##### 1) 地域創生マインド養成教育プログラムの完成

本校では地域で活躍する人材の育成を目指し、「地域創生理解科目」、「地域創生演習科目」、「地域創生実践科目」の3つの科目群で構成される地域創生マインド養成教育プログラムを定め、平成28年度より試行をスタートし、平成29年度は専攻科改組に伴うカリキュラム改訂により本格展開を図った。平成30年度は専攻科2年生を対象に「地域と世界の文化論」を加え、本科1年生から専攻科2年生に至る学年進行とともに順次履修していくことで“地域創生への使命感”を涵養していく「地域創生マインド養成教育プログラム」の科目が揃った。今後は、平成31年度の本科カリキュラム改訂により更なる拡充を図り、地域創生に貢献する人材の育成に努める。

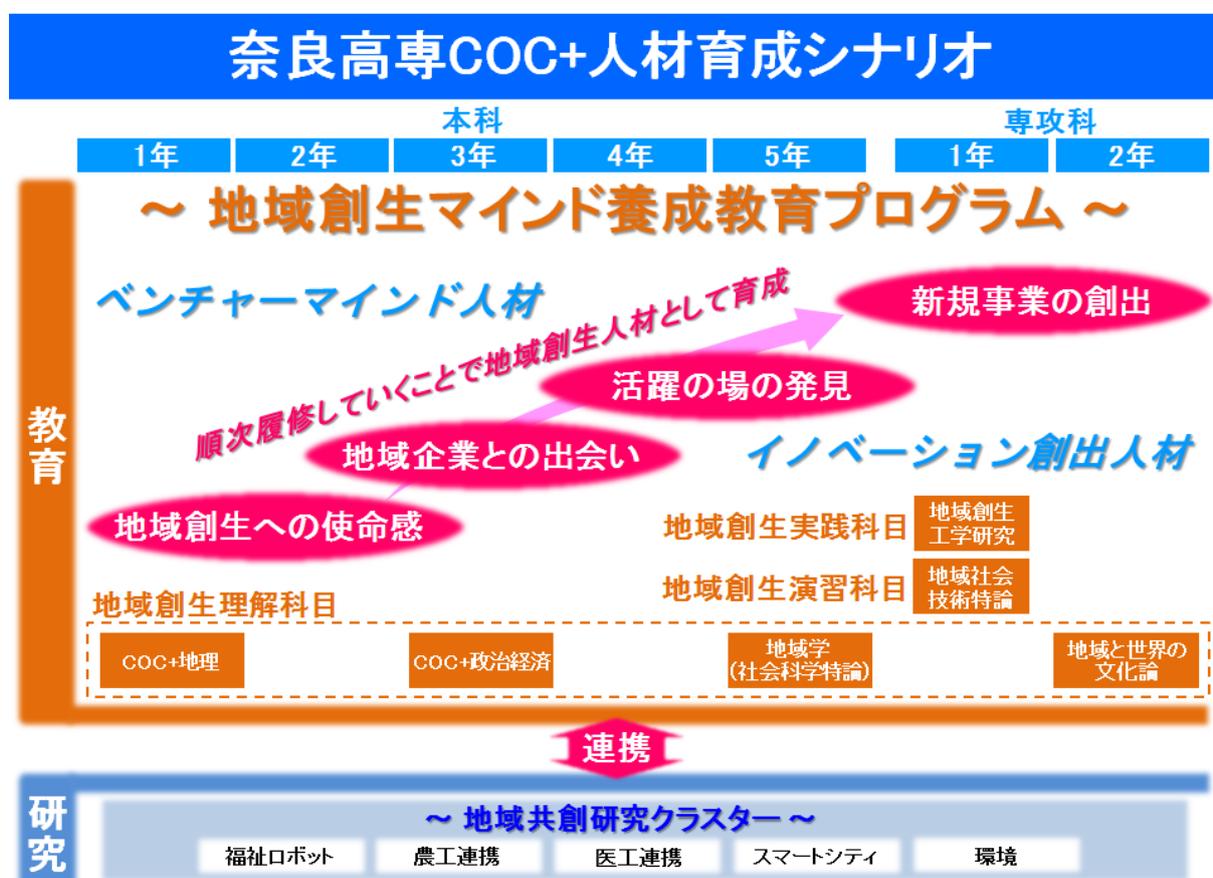


図1 奈良高専のCOC+人材育成シナリオ

科目が揃った平成30年度は、地域創生理解科目として「COC+地理」、「COC+政治経済」、「社会科学特論」、「地域と世界の文化論」、地域創生演習科目として「地域社会技術特論」、地域創生実践科目として「地域創生工学研究」を実施し、学内での地域創生科目の周知、浸透を図ることができた。

## 2) 地域創生科目の実施実績

本校での地域創生科目の実施実績は、科目数の拡充と共に受講人数、累計授業時間ともに増加し、学生の間でも地域創生科目の認知が広がると共に、受講を通じて地域創生に対する意識が定着してきている。

平成30年度の累計受講人数は545名、累計授業時間数は129時間であり、平成29年度よりほぼ定着方向で推移している。

表1 地域創生科目の実施実績

地域創生科目	対象	必修・選択	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
			受講人数	時間	受講人数	時間	受講人数	時間	受講人数	時間
COC+地理	本科1年	必修	-	-	209名	90分×5回	220名	90分×4回	210名	90分×5回
COC+政治経済	本科3年	必修	-	-	215名	90分×8回	202名	90分×8回	192名	90分×6回
社会科学特論	本科5年	選択必修	-	-	-	-	103名	90分×15回	49名	90分×15回
地域社会技術特論	専攻科1年	必修	-	-	-	-	40名	90分×15回	40名	90分×15回
地域創生工学研究	専攻科1年	選択必修	-	-	-	-	5名	90分×30回	14名	90分×30回
社会技術特論	専攻科2年	必修	40名	90分×1回	33名	90分×15回	48名	90分×15回	地域社会技術特論へ移行	
地域と世界の文化論	専攻科2年	必修	-	-	-	-	-	-	40名	90分×15回
計			40名	1.5時間	457名	42時間	618名	130.5時間	545名	129時間

### (2) 地域創生科目の実施

#### 1) 『COC+地理』（本科1年生5学科・平成30年7月23日～10月30日）

平成28年度、29年度に引き続き、平成30年度もCOC+事業における地域創生理解教育の一環として、本科1年生5学科共通の授業として『COC+地理』が、平成30年7月23日（月）から10月30日（火）までの期間、各学科全5回に渡って行われた。世界と日本の諸地域にみられる「地域性」を自然・社会の両面から理解するとともに、各地域が抱える諸問題について考える授業の中で、奈良県の地域性を理解し、奈良県の抱える問題について統計から分析し、その魅力を見出すことにより、地域に対する愛着を深めることを目指した。

#### a) スケジュール

講義は表2のスケジュールで実施された。

表1 平成30年度『COC+地理』スケジュール

週数	講義内容
第1回	講義 日本のなかの奈良、地域調査準備
第2回	講義:グループ活動① ・グループ決定・市町村決定
第3回	グループ活動② ・発表内容、デザイン決定・ポスター作成
第4回	グループ活動③ ・調査およびデータ整理・ポスター作成
第5回	グループ発表 (ポスター発表)

## b) グループ活動

奈良県の市町村を学校や地域の図書館、インターネットを利用して調査・考察し、奈良の魅力を再発見すると共に、各グループが選択した市町村の魅力をPRする「奈良県のポスター」作成に取り組んだ。



写真1 『COC+地理』授業風景

## c) グループ発表

学生は、奈良県の市町村について、基本情報である人口・面積・世帯数などの統計データや歴史・文化・風習などについて調べ、また、そのエリアの観光、特産品・郷土料理・伝統産業や世界遺産、重要文化財・伝統的建造物などの情報を集め、まちの強みを紹介した。そして、キャラクター等を用いた地域おこしの現状やイベント情報を伝え、まちの魅力を最大限にPRした。



写真2 『COC+地理』グループ発表風景

## 2) 『COC+政治経済』(本科3年生5学科・平成30年6月13日～7月26日)

平成28年度、29年度に引き続き、一般教科『政治経済』の一環として、本科3年生(5学科共通)を対象に、奈良県の地域産業・経済に対する理解を深め、地元企業の魅力を発見し、地域への愛着を高めることを目的とした講義を実施した。(平成30年6月～7月、計6回)

### a) スケジュール

第1回では、奈良中央信用金庫より地域経済の現状や課題を中心に特別講義が行われ、第4回では、県内企業5社(フルックスグループ、奈良精工株式会社、奈良OAシステム株式

会社、株式会社品川工業所、広陵化学工業株式会社)の幹部を講師に招き、地域産業・経済、自社事業の業界動向や課題につき特別講義が行われた。それら講義内容を踏まえ、奈良県産業・経済の課題をグループワークで議論し、奈良県を活性化させるための事業アイデアについてSWOT分析手法を使って取り組むべきテーマを絞り込み、そのテーマについて具体的な構想を「事業計画書」に仕上げた。

第6回では、奈良中央信用金庫に出席いただき、学生たちがグループ毎に仕上げた「事業計画書」を発表した。発表した各「事業計画書」に対し、奈良中央信用金庫から講評をいただき、その場で採点し、結果が発表された。ベスト3のグループが表彰されると、教室内は大いに盛り上がり、学生たちの高いモチベーションが示された。

表2 平成30年度『COC+政治経済』スケジュール

週数	日程		講義内容
	(3S・3C)	(3E・3M・3I)	
第1回	6/13(水)	6/14(木)	奈良県経済の現状と課題 特別講義:奈良中央信用金庫様による奈良経済の課題
第2回	6/20(水)	6/21(木)	1. データを用いて奈良県の特徴を把握してみよう 2. 体験「SWOT分析!」奈良県経済の現状を分析しよう
第3回	6/27(水)	6/28(木)	事業計画書を作成しよう — 商品・サービスのアイデアを交え事業計画書をつくらう! —
第4回	7/4(水)	7/5(木)	1. 特別講義:奈良県企業様による特別講義 2. 事業計画書をみてもらおう!
第5回	7/11(水)	7/12(木)	事業計画書発表準備 — プレゼンテーションの準備をしよう! —
第6回	7/25(水)	7/26(木)	グループ発表 奈良中央信用金庫様による評価

## b) 県内各企業幹部による特別講義

### b-1. 奈良中央信用金庫による特別講義

はじめに、金融機関の役割や種類・業務について紹介があり、つぎに、奈良県経済の概要や奈良県内の産業や主要な製造業及び地場産業の現状と課題を全国ランキングや市場占有率を用いて説明が行われた。学生は、これから実際に作成する事業計画書が企業の経営指針やビジョンとなり、金融機関の評価を大きく引き上げ、資金調達を実現する重要な役割であることを知った。



写真3 奈良中央信用金庫による特別講義の風景

### b-2. 県内企業5社の幹部による特別講義

各企業幹部から地域産業・経済、自社事業の業界動向や課題につき特別講義が行われた。

◆フルックスグループ（平成 30 年 7 月 4 日、電子制御工学科 3 年生）



写真 4 フルックスグループによる特別講義、アドバイスの風景

◆奈良精工株式会社（平成 30 年 7 月 4 日、物質化学工学科 3 年生）



写真 5 奈良精工株式会社による特別講義、アドバイスの風景

◆奈良OAシステム株式会社（平成 30 年 7 月 5 日、電気工学科 3 年生）



写真 6 奈良OAシステム株式会社による特別講義、アドバイスの風景

◆株式会社品川工業所（平成 30 年 7 月 5 日、機械工学科 3 年生）



写真 7 株式会社品川工業所による特別講義、アドバイスの風景

◆広陵化学工業株式会社（平成 30 年 7 月 5 日、情報工学科 3 年生）



写真 8 広陵化学工業株式会社による特別講義、アドバイスの風景

c)最終発表

各学科第 6 回の講義では、グループ毎に取り組んできた事業計画書の最終発表（プレゼン）が行われた。グループが 7 分（発表 5 分+質疑応答 2 分）という時間制限の中、プレゼンテーションを行い、奈良中央信用金庫と教員の評価に加え、学生相互によるクリッカーシステムを活用した投票形式の評価が行われた。奈良中央信用金庫と教員は、①事業内容 ②表現の二つの基準からの評価を行った。学生は、自分たちの発表に対するコメントなどを直接知ることにより、クラス全体で思いを共有した。

表 3 評価ポイント

事業内容	表現
1. 新規性	5. 発表構成
2. 実現性	6. 視聴覚資料の活用
3. 事業性	7. 話し方・振る舞い
4. 社会的必要性	8. 質疑応答での対応



写真 9 最終発表風景



写真 10 評価発表風景及び記念写真

### 3) 『社会科学特論』(本科5年生選択必修・平成30年4月9日～8月6日)

本講義は、グローバリゼーションの進展と地域への影響や持続可能な地域の発展の重要性を理解し、地域政策における主要なアクター(住民・住民団体、NPO、企業、行政等)とその機能について“工学的な知識をもつ技術者がどのようにして地域社会の問題にアプローチしていけばよいのか”について学び、グループワークを通じて実際に場所・地域をイノベーションするためのプランを構想することで、学生は世界の中で、地域をイノベーションしていくことの重要性を共有した。

#### a) スケジュール

講義は、表4のようなスケジュールで実施した。

表4 平成30年度『社会科学特論』スケジュール

週数	日程	講義内容
第1週	4/9	ガイダンス
第2週	4/16	グローバリゼーションと地域
第3週	4/23	グローバリゼーションと地域
第4週	5/7	持続可能な地域の発展
第5週	5/14	日本の自治体政策
第6週	5/21	地域経済とその指標
第7週	5/28	地域経済とその指標
第8週	6/11	グループ演習(1)
第9週	6/25	グループ演習(2)「斑鳩町商工会職員・女性部員による特別講義」
第10・11週	7/9	グループ演習(3)(4)「斑鳩町のフィールドワーク」
第12週	7/18	グループ演習(5)
第13週	7/23	グループ発表「斑鳩町商工会職員・女性部員によるプレゼンテーション評価」
第14週	—	期末試験
第15週	8/6	試験返却・解答

#### b) 特別講義

第9週では、「斑鳩町のまちづくり」をテーマに本校と斑鳩町商工会との協働による特別講義が行われた。

斑鳩町商工会 澤崎様からは「商工会が進める地域活動」と題して、商工会の概要や中小企業・小規模企業者の定義、円グラフを用いて企業規模別構成比(%)の説明などがあった。そして、全国の小規模企業の割合が大企業や中規模企業の割合よりも多く86.5%を占めている現状や斑鳩町の事業者数について説明があった。また、現在取組んでいる地域おこし、地域活性化について詳しくご紹介があった。

続いて斑鳩町商工会 女性部 松村様より女性経営者の立場から、女性部部長の活動や次世代育成の取組みの紹介があった。自身の理容・美容師の経験から息子さんに想いを馳せながら、女性部部長として何ができるのか、何がやりたいのかを考え、経営者にならなくても役に立つ、次世代に残せる取組として、平成29年度より開催している「高校生ビジネスグランプリ in 斑鳩」の紹介があった。



写真 11 斑鳩町商工会 澤崎様（左）、同商工会女性部 松村様（右）の特別講義風景

### c) 斑鳩町フィールドワーク

午前の部は、電気工学科 18 名と情報工学科 6 名、午後の部は、機械工学科 4 名と電子制御工学科 15 名、物質化学工学科 6 名の合わせて 49 名の学生が、JR 法隆寺駅近辺の商店街と法隆寺界隈を実際に歩き、斑鳩町議会議員や地元の商工業者等から生の声やまちづくりの課題についてヒアリングを行った。このフィールドワークを通して、学生は普段の座学では得られない体験により“工学的な知識をもつ技術者がどのようにして地域社会の問題にアプローチしていけばよいのか”を学び、地域をイノベーションしていくことの重要性を知った。



写真 12 斑鳩町フィールドワークの風景

### d) プレゼンテーション評価

平成 30 年 7 月 23 日（月）、斑鳩町商工会 澤崎様と斑鳩町商工会 女性部 松村様を招き、「斑鳩町商工会職員・女性部員によるプレゼンテーション評価」と題して、午前と午後の二回特別講義を実施した。学生は各班 7 分のプレゼンテーションを行い、終了後には 3 分の質疑応答の時間が設けられた。その後、教員・斑鳩町商工会・学生によるクリッカーシステムを活用した投票形式の評価が行われた。発表に対して、聞き手の学生からも積極的な質問が行われ、澤崎様と松村様からは、各班に対して的確なアドバイスがあった。



写真 13 講評の風景

#### 4) 『地域社会技術特論』(専攻科1年生必修・平成30年4月13日～7月27日)

平成28年度に専攻科2年生を対象とした地方創生への貢献力、問題発見能力、課題解決能力を主な講義目的とする『社会技術特論』を試行的に先行実施した。

平成29年度は、専攻科改組に伴うカリキュラム変更を行い、新たに専攻科1年生を対象に同様の講義目的で前期に『地域社会技術特論』を実施した。平成30年度も昨年より引き続き、地域創生演習科目として、地方創生に対して技術者が果たす役割とその重要性を理解することを目的として本授業を実施し、課題発見、課題解決能力等を養った。本授業では、奈良県下の企業3社(株式会社品川工業所、クオリカプス株式会社、東邦化成株式会社)に協力いただき、実際のものづくりの現場で抱えている問題を提供いただき、その問題に対し技術者の立場から課題解決に取り組んだ。

##### a) スケジュール

平成30年4月13日(金)より全15回に渡って実施し、中間発表会や最終成果発表会には、県内企業3社を招き、コメントをいただいた。

表5 平成30年度前期『地域社会技術特論』のスケジュール

週次	日程	講義内容
第1週	4/13(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ガイダンス、グループ分け
第2週	4/18(水) 1-2限目(9時00分～10時30分)	<a href="#">ファシリテーションの技法</a>
第3週	4/27(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	奈良県の製造業の現状についての調査
第4週	5/11(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題分析と課題設定
第5週	5/18(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題分析と課題設定
第6週	5/25(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題解決演習
第7週	6/1(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	中間発表会準備
第8週	6/8(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">中間発表会</a>
第9週	6/15(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題解決演習
第10週	6/22(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題解決演習
第11週	6/29(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題解決演習
第12週	7/6(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	問題解決演習
第13週	7/13(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	最終発表会準備
第14週	7/20(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">最終成果発表会</a>
第15週	7/27(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	まとめ(期末レポート提出)

##### b) ファシリテーション技法の講義

第2週では、出身学科が異なる学生たちが、アイデアを生み出し、まとめていくために必要な合意形成の技術「ファシリテーション技法」を学んだ。このファシリテーション技法は、奈良高専で過去数年間特別講師として指導した元沼津高専(現東北工業大学)の大石加

奈子先生がまとめられた手法を使っている。電気工学科 藤田教授から、合意形成の必要性や、ペイオフマトリックス、フィッシュボーン、TRIZなどの技法の講義が行なわれた後、「磁石を使った小中学生用出前授業教材を考える」という課題でファシリテーションの実習を行った。

講義で教えられた技法を使って活発な話し合いが行われ、ファシリテーション技法の概略を身につけることができた。



写真 14 ファシリテーション技法の講義風景

### c) 中間発表

中間発表では、各企業出席のもと、各チームが企業から提供のあったテーマに対し、工場見学で実際に見聞きした情報や関連技術文献調査などを基に、ロジックツリーやペイオフマトリックスなどの手法を用いて問題点と課題を整理し、解決策の検討状況を発表した。各チームの発表に対して出席の企業から率直な意見・感想をいただき、今後の解決策検討の方向性が示された。



写真 15 学生による発表風景



写真 16 企業からの質疑応答風景

#### d) 最終成果発表

最終発表会当日は、中間発表会に引き続き、県内企業3社出席のもと、各チームが中間発表の際に企業よりいただいた意見も踏まえ、以下のような点を考慮して多面的に解決策の検討・絞り込みを行い、課題解決提案を行った。

- ・ 課題に対する具体的な解決策
- ・ 他に検討していた解決策と比較し、今回提案する策に決定した背景
- ・ 提案の解決策の技術的要素
- ・ 解決策の社会的な貢献度
- ・ 実際にモノづくりをするとした場合の課題点

発表のあと、企業から率直な感想をいただくとともに、アンケートに回答いただいた結果、プレゼン内容はわかりやすく、総体的にユニークかつ有効な提案であったとのコメントがあった。本授業では、学生が現地調査等を通じ企業が実際に抱える問題に関心を持ち、技術者が果たす役割と重要性を理解するとともに、複数名でチームを組んで課題解決に取り組むグループワークを通してコミュニケーション能力や合意形成力など養うことができ、非常に有益な授業となった。



写真 17 左：学生による発表風景、右：出席者による質疑応答風景

#### 5) 『地域と世界の文化論』(専攻科2年生必修・平成30年4月11日～7月25日)

本授業は、様々な地域の歴史と文化の理解を通じて、地方創生に関する使命感を滋養し、地域と世界を同時にみつめていくことの重要性、地域と世界を結ぶイノベーションの重要性について学ぶことを目的に、平成30年4月11日(水)より全15回に渡って実施された。

また、本授業は、地方創生推進事業(COC+)の事業協働機関である奈良女子大学と奈良県立大学との単位互換科目の一つであり、各回のテーマに応じて協定校や学内から様々な講師を招へいし、オムニバス形式の講義を実施した。

グローバル化の進展を踏まえた上で、工学的な知識を持つ技術者がどのようにして地域の課題を分析し、あるいはその解決方法について検討すればよいのか等、様々な視点から課題解決にアプローチしながら学生たちは最終発表に臨んだ。

## a) スケジュール

講義は、表 6 のようなスケジュールで実施した。

表 6 平成 30 年度前期『地域と世界の文化論』スケジュール

週次	日程	講義内容
第 1 週	4 / 11(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ガイダンス
第 2 週	4 / 18(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	アフリカ世界の歴史と現状(仮) 特別講師: 藍沢 光晴(奈良高専)
第 3 週	4 / 25(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	マダガスカル海洋貿易(仮) 特別講師: 藍沢 光晴(奈良高専)
第 4 週	5 / 2(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ディスカッション
第 5 週	5 / 11(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	グローバル化と現代世界 特別講師: 板倉 和裕(奈良高専)
第 6 週	5 / 18(金) 7-8限目(14時40分～16時10分)	グローバル化する世界のながのインド 特別講師: 板倉 和裕(奈良高専)
第 7 週	5 / 23(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ディスカッション
第 8 週	5 / 30(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">地域と経済・観光【1】人々との共創が織り成すコンテンツツーリズム</a> 特別講師: 増本 貴士 特任准教授(奈良県立大学)
第 9 週	6 / 6(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">地域と経済・観光【2】国際観光の発展と地域</a> 特別講師: 中谷 哲弥 教授(奈良県立大学)
第 10 週	6 / 13(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ディスカッション
第 11 週	6 / 20(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">地域と歴史・文化【1】奈良の地域性と文化を知る</a> 特別講師: 寺岡 伸悟 教授(奈良女子大学)
第 12 週	6 / 27(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">地域と歴史・文化【2】奈良の古代燕子文化を受け継ぐ～甘藷煎再現～</a> 特別講師: 前川 佳代 協力研究員(奈良女子大学)
第 13 週	7 / 4(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	ディスカッション
第 14 週	7 / 11(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	グループワーク【1】
第 15 週	7 / 25(水) 7-8限目(14時40分～16時10分)	<a href="#">最終グループ発表</a>

## b) 学外講師による講義

本講義は本校と奈良女子大学及び奈良県立大学とが取り交わした“地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 参加大学等間単位互換に関する覚書”（平成 29 年 9 月 19 日締結）により実現し、奈良女子大学、奈良県立大学の教員が講義を行った。

### b-1. 奈良県立大学教員による講義

平成 30 年 5 月 30 日（水）、奈良県立大学 増本 貴士特任准教授による「人々との共創が織り成すコンテンツツーリズム」と題した講義が行われた。増本特任准教授は、学生へのキャリア教育、地元資産（歴史・文化・景勝等）の再確認・活用の二つをコンテンツツーリズム（≡聖地巡礼：宗教的な意味は無く、俗語的な言葉）による持続的・発展的な可能性として位置づけ、観光学からのアプローチとして講義が行われた。

平成30年6月6日(水)には奈良県立大学 中谷 哲弥教授による「国際観光の展開と地域ー奈良とインド・バングラデシュにおける農村観光ー」と題し講義が行われた。観光という視点から地域(奈良)と世界の文化についてアプローチしていき、観光のなかに、いかに文化(=生活文化)が組み込まれ、観光資源化されているのかを奈良とインド・バングラデシュにおける農業体験や農家民宿などの農村観光(グリーン・ツーリズム)を中心に、奈良県立大学の学生が体験したスタディツアーやエコツーリズム等の事例の紹介があった。



写真18 左：増本特任准教授による講義風景、右：中谷教授による講義風景

## b-2. 奈良女子大学教員による講義

平成30年6月20日(水)、奈良女子大学 寺岡 伸悟教授による、「奈良の地域性と文化を知る」と題した講義が行われた。寺岡教授は、「地域づくり」、「社会技術」、「観光とメディア」をテーマとした社会学が専門であり、特に「社会技術」の分野では、エンジニアが社会の課題を解決する仕組みについて本校教員と連携した研究に取り組んでいる。今回の講義では奈良県の地域区分と伝統産業について講義が行われた。奈良県では、上質で少量生産である神仏に捧げるものづくりが特徴であること、内陸という立地が大量輸送に不適合で、靴下(生産量日本一)のような軽くて搬送性の高いもの以外は大量産地にならなかったこと、さらに、清酒発祥の地である日本酒を例に、近代の大量・均質生産の流れの中で苦戦した奈良の伝統産業について現状の紹介があった。その反面、貝釦や革製品、前述の日本酒等、色々な手作り品や風土を活かしたものづくりが県内各地に残っており、時代とともに社会の価値(スローライフ・手作り・ネットワーク化等)と結びつき、再評価されつつある現状についても紹介があった。

平成30年6月27日(水)には、奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センターの前川 佳代協力研究員による「奈良の古代菓子文化を受け継ぐ～甘葛煎(あまづらせん)再現～」と題した講義が行われた。「甘葛煎とは、古代から用いられた日本独自の甘味料で、『枕草子』にも登場します。原材料はブドウ科のツタで、糖度が高くなる冬季のツタを伐採し、樹液を取り出し、煮詰めたものです」と再現品を見せながら紹介があった。現代の奈良にお供え物として残る遣唐使が伝えた唐菓子、敦煌(中国甘肅省北西部の都市)でも食べられていたハクタク(法隆寺聖霊院お会式の供物(ネコミミ)で古代食)やブト(春日大社神饌)、中世の奈良饅頭の紹介があった。それらの甘味として使われ、さらに遣唐使とともに唐へ渡った甘葛煎の話も重ねて、古代の豊かな菓子文化とそれをもたらした国際交流に想いを馳せ講義が進められた。



写真 19 左：寺岡教授による講義風景、右：前川協力研究員による講義風景

### (3) 地域創生授業の体験から芽生えた学生アイデア

地域創生科目の受講体験を通じ地域創生への意識が芽生えた学生たちが授業の中で考えた自身のアイデアを更にブラッシュアップさせ、県内の様々なコンテストへ応募した。学生たちが地域創生授業を通じ、地域への愛着に芽生えた一つの事例となった。

#### 1) 『第2回 高校生ビジネス・グランプリ in 斑鳩』で本校学生が最優秀グランプリ受賞

平成31年1月27日(日)、斑鳩町中央公民館において、次世代育成事業の一環として斑鳩町商工会女性部が開催した第2回「高校生ビジネス・グランプリ in 斑鳩」グランプリ審査会に、本校の学生3組が参加した。第一次審査を通過した本校の学生たちは、平成30年9月の参加者説明会の後に、斑鳩町コーディネーターとともに、斑鳩町の協力事業所との調整や審査会に向けた事業計画書作成の打合せを行い、このビジネス・グランプリ審査会に挑んだ。選考方法は、当日抽選にて決められた順番でプレゼンテーション(発表と質疑応答20分)を行い、審査方法として、作成したビジネスプランの「社会性、実現可能性、新規性、競争優位性、収益性、地域経済への波及効果」に着目したプランの熟度に加え、当地域(奈良県)とのマッチングや人物評価(熱意のあるプレゼン力等)を考慮して審査が行われた。奈良県内の高等学校等から参加した9組の学生によるプレゼンテーションが終わり、12名の審査員が賞金を投資する形式で投票が行われ、その獲得金額が最も高い者にグランプリが授与された。最終審査の結果が発表され、『NooC ノーク～奈良だけのクレヨン～』を発表した本校 電気工学科 3年生 藤野夏帆さんが見事、最優秀のグランプリを獲得した。

『NooC ノーク～奈良だけのクレヨン～』は、斑鳩町のラベンダーや県内産の野菜などで着色したクレヨンを地元の名産品にしていきたいという熱い思いがこめられたアイデアです。今後、当テーマの検討に協力いただいた人たちと商品化の可能性につき具体的な議論を進めていくことになった。地域活性化に向けた学生のアイデアが更にブラッシュアップされ、商品化に向けた議論に進むことで学生のベンチャーマインドが涵養されるとともに、学生と地域との連携が深まることが期待される。



写真1 「第2回 高校生ビジネス・グランプリ in 斑鳩」 本校学生プレゼンと表彰式風景

## 2) 『ビジコン奈良 2019 セミファイナル』への本校学生の参加

平成30年12月15日(土)、「ビジコン奈良2019 セミファイナル」が、奈良県産業振興総合センター イベントホールにて開催された。本校からシステム創成工学専攻 機械制御システムコース 1年生 古川 優人君と電子制御工学科 5年生 吉村 勘太郎君がIoT部門(午前の部)に参加し、発表を行った。この催しは、奈良県が主催し“学べ実践、産み出せ実業！ 新起業家時代 奈良から始まるその思い”と題して、県内における起業に向けた機運の醸成を図るとともに、斬新なアイデアをもった起業家を発掘することを目的としたビジネスプランコンテストである。全国から奈良県で創業を目指すビジネスプランを公募し、優秀と評価されたプランに表彰が行われる。本校学生は『project“MYDEASON”ーアイデア人と技術人をつなげるー』と題しプレゼンを行った。



写真2 『ビジコン奈良 2019 セミファイナル』における本校学生の発表風景

## (4) COC+3 校連携地域創生科目『なら学+』での本校教員による講義実施

本講義は、本校と奈良女子大学・奈良県立大学が連携した地方創生推進事業(COC+)の一環として、3校が取り交わした単位互換科目の一つとして実現し、毎週多彩なゲスト講師を招へいし、奈良の取組みや課題を異なる専門分野からの視点で学んだ。平成30年10月2日(火)より全15回に渡って講義が進められ、本校から2名の教員が2回にわたり、奈良女子大学で講義を行った。平成30年11月20日(火)、奈良女子大学 文学系S棟 235教室にて、本校 電気工学科 藤田 直幸教授による「モノづくりを通じての地方創生」と題した講義が行われた。また、平成30年12月20日(火)には、本校 一般教科(政治・経済) 竹原 信也

准教授による「地域社会における技術者の役割を考える」と題した講義が行われた。



写真1 左：藤田教授、右：竹原准教授 の講義風景